

## 1 研究主題

自己を表現し、他者と高め合う生徒の育成  
～話し合い活動を取り入れた授業づくり～（1/2年次）

## 2 研究主題設定の理由

本校では平成21年度～22年度において、「一人一人の生徒に生きる力を育む学習指導のあり方～基礎的・基本的事項を定着させるための指導法の研究～」を研究主題に掲げ、研究実践を進めた。各教科において、学習内容を精選し、指導方法を重点化したことで、「わかる授業」への改善が図られつつあるなど、一定の成果を挙げることができた。だが一方で、次のような課題も認められた。

- ① 生徒の姿から…基礎的・基本的事項にかかわる用語を暗記しただけにとどまり、知識を関連付けて体系的に理解することができていない。そのため、既習事項を活用して新たな課題を解決することを不得手としている。
- ② 教師の実践から…基礎的・基本的事項の定着の基盤となる学習意欲や学習規律の向上につながる実践が充分ではない。

課題①を受けて、授業を通して、学習内容についての理解や認識の深化を図る手立てが必要であると考えた。そのためには、答えを素直に受け入れる学習から課題の追究過程を重視する学習への転換が欠かせない。例えば、自分の考えを表現という行為によって他者に示し、他者とのかかわりの中で考えを発展させ、より客観的・合理的なものへと高めていく。このような協同的な追究場面が保障される授業展開が必要であると考えた。そこで、話し合い活動を取り入れた授業構成、話し合い場面における指導と評価の工夫に重点をおいた授業づくりを進めたい。ここでの「話し合い」は、ペアでの話し合い、グループでの話し合い、学級全体での討論等、多様な形態を包括した概念である。単元および一単位授業において、話し合い場面を設定し、その指導と評価の工夫を図れば、生徒は学習内容についての理解を深めていくのではないかと考える。これまで述べたことは、道徳や学級活動の授業づくりにも適用する。価値の追究・深化のために、集団生活の向上・充実のために、学級のメンバーが意図的にかかわる学習の工夫をめざしたい。

次に、前段および課題②を受けて、学習意欲を高める指導過程の共有を進めたい。教科・領域、単元等による特性も考慮し、指導過程の工夫を図り、教師が肯定的な評価を行うことで、生徒の学習意欲を高める授業を行うことができると考える。

### 3 研究仮説

本年度は話し合い活動を取り入れた授業づくりに重点を置き、次の研究仮説に基づく研究実践を推進する。

仮説1：単元の授業設計において、話し合い活動の場を設定し、話し合い活動についての指導と評価の工夫を図れば、生徒は学習内容についての理解を深めるとともに、生徒相互が考えを深めたり、表現したりする力を高めることができるだろう。

仮説2：問題解決的な学習の充実を図り、学習の各過程において、教師が肯定的な評価を行えば、生徒の学習意欲を高めることができるだろう。

### 4 研究の構想

(1) 教科の授業における話し合い活動の重点（仮説1に関連）

ア 話し合いの根底となるルール（教師による日常的な指導）

#### ① 傾聴

- ・ 発表者を向き、発表者の考えを理解するように努め、最後まで聞く。
- ・ 発表に対して反応をする。（納得のうなずきなど、意思表示をする。）
- ・ 不明な点は質問をする。
- ・ 他者の考えで参考になる点や自分と違う考えは簡潔にメモを取る。

#### ② 発表

- ・ グループの規模に応じた声量で話す。
- ・ 他者に伝わるスピード、間、強調を心がける。  
（必要に応じて、資料を示しながら話す）
- ・ 結論を先に述べる。経緯・理由は後に述べる。
- ・ 事実を先に述べる。解釈は後に述べる。

イ 話し合いの形態

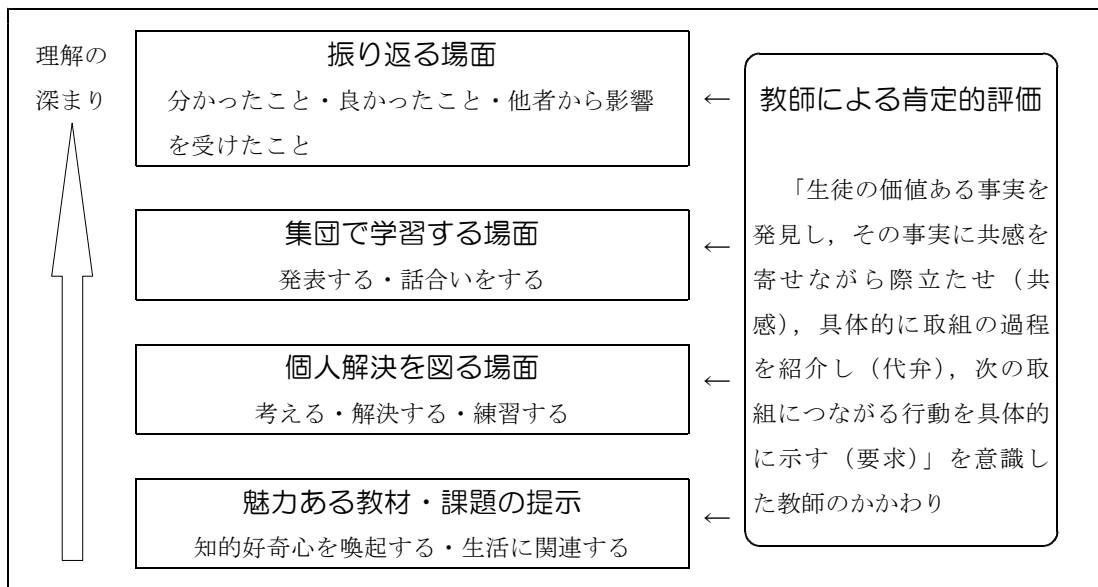
形態	場面	特色
ペア学習	①課題に対する見通しを持たせたあと ②一斉授業の中で全体に問題意識を持たせるような発表がなされた後 ③本時の学習で分かった	・ペアに説明をし、次に相手の考え方を聞き、疑問点を述べたり、意見交換をしたりする。 ・2人のうち必ずどちらかが表現していることになり、表現の時間が確保され、自分の考えを整理することができる。 ・他者の表現に対してKRを返すのは自分だけであり、真

	ことをまとめた後	剣に他者の考えを理解しようとする事が期待できる。
小グループ学習	実験や調査あるいはその結果の分析・考察など、一人では十分にその目的を達せられない場合や、できるだけ多くの考えに短時間で触れさせたい場合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペア学習ほど、一人一人の表現の時間を確保できない。</li> <li>・意見の対立が生じやすく、思いや考えをぶつけ合いながら意見交換を進めることで思考が深まる。</li> <li>・互いに自分の考えを表現していく中で、思考を深め、自分の思いつかなかった多様な見方・考え方、表現方法に気づき、それらを身につけていくことができる。</li> </ul>
中グループ学習	一単位時間の中で一人一人が自己追究をした後に、思いや考えが同じ(違う)生徒同士で構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペア学習や小グループ学習に比べて自由な雰囲気の中で表現することはできないが、二つの形態に比べて、大勢に理解してもらうような表現が求められる。</li> <li>・生徒は既有知識や体験を最大限に駆使する必要がある。</li> </ul>

ウ 話し合いのさせ方

- ① 単元、一単位時間における話し合い活動の位置付け
- ② ねらいの明確化（話し合いの観点・方法を明確に指示）
- ③ 形態（規模、班の組み方）の工夫
- ④ 役割分担（進行、記録等）
- ⑤ 話し合いの進め方、まとめ方の例示

(2) 各教科・領域における学習意欲を高める指導過程（仮説2に関連）



## 5 研究の進め方

学力向上総合プラン授業等との関連を図りながら、各教科・領域において、話し合い活動を取り入れた授業実践に努める。そして、実践の成果と課題をふまえ、基礎学力の向上につながる話し合い活動の指導と評価の方法を工夫していく。

(研究体制)

